

2021年5月24日

第6回懇談会欠席にあたっての文書による意見提出について

このたび諸般の事情により会議に出席できなくなり申し訳ありません。つきましては以下の意見を文書で提出しますのでよろしく願いいたします。

1 参考資料2「計画における指標の取り扱い」について

留意点の中に「学びに向かう力や人間性」など、数値化することが困難なものが多数存在することや調査に当たって財政、労力等の負担が大きいことが課題として挙げられ進行計画に反映されていますが今までの調査内容で活用できるものがあると考えます。全国や県の学力・学習状況調査の中で学習状況調査の項目は、一人一人の意欲、意識の向上や課題など、全校生や保護者で共有し、さらに意識向上を図る上で有効でした。町単位のデータは町校長会でも活用できました。現在、手元がないので文言は明確ではありませんが「自分にはよいところがあると思う」「将来人の役に立つ人になりたいと思う」など想定される指標と関連する項目があります。また、必要があれば項目内容を改善するなど、新たな調査を増やすことなく活用することができると考えます。

2 基礎学力と読解力を持つ子どもに

資料1のp.15下段のようにICT活用について「紙とデジタル双方のよさを生かして教育効果を最大限に上げる」ということは大切だと思います。特に調べ学習や他校との交流学习など効果を実感しています。同時に中学校までの教科書の内容はしっかり身につけてほしいと考えます。「自分で考え、学び合いを通してよりよい考えを導く」授業の研究を常に行いながらしっかりと身につける。ICTを重視するあまり、限られた時数の中で大切なことがおろそかにならないか心配です。例えばプログラミング学習は補足的なもの・・・その基礎となる数学の定義・定理を理解できているか？そして教科書の完全デジタル化への懸念もあります。学力低下、視力などの健康被害、IT環境の格差など。タッチパネルやキーボード操作ではなく、じっくり読み考え、書く力が大切。いつでも、どこでも、何度でも、読んで理解しさらに考える。教科書は紙を基本としていただきたい。その上で詳しく調べ、学びを深めたり、広げたりするところにICTを活用する。また、聴覚等に障害のある方にはデジタル教科書は有効とのこと、ICTは本当に必要なところに必要なだけ活用できるのが望ましいと考えます。

3 深刻な教員不足の問題について

教員不足による教員の資質低下、ひいては教育の質の低下が懸念されます。今年度講師の多くが採用試験に合格されたのは喜ばしいことですが、福島県独自の30人学級や複式補正、初任研後補充などの政策が講師不足によって実現できなくなっています。それは働き方改革を進める上でも困難な状況を生んでいます。まず、教員への志願者を増やすために教職の魅力化が必要です。その1つに教員免許更新制度(2009.4～)の見直しが必要だと考えます。全ての教員に課せられたこの制度が不祥事防止や資質向上に役立つとは考えられません。退職されたベテランの方の力を借りたいと思っても免許を更新してまで現場に来てくださる方は少ないです。それだけ労力が必要だからです。必要なのは大学での学び直しではなく、目の前の子どもたちへの日々の教育活動を通して教員は成長するものと思っています。経験年数に応じた専門研修やセンター等での希望研修、小中ごとの教育研究会、校内研修等があるのでそれで十分だと考えます。他の資格職業との大きな違いは、専門の大学で学んでも10年ごとの期限付きの資格しか取得できないということです。一方で、もともと免許がなくても臨時免許で講師ができるという矛盾です。この更新制度の改正がない限り教員免許を取得しようとする優秀な人材は他に流れていってしまうと懸念しています。

素案の中でSDGsの理念や視点が重視され、「福島を生きる」教育が、グローバルな視点をもって福島を支える豊かな人間像育成として示されていてよかったですと感じました。